

## 合格体験記（AO方式入学者選抜）

第Ⅱ項 学芸 学部 国際教養 学科

出身高校名 名城大学附属高校

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は愛知県から受験したのですが、もともと京都に憧れを持っていました。なぜなら京都は歴史のある日本らしい観光地であり、外国人観光客が多いからです。さらに国際教養学科では、1年間の留学があるので留学したいという思いがある私にはぴったりの学科でした。私は長期の留学は未経験で、また英語が話せないので留学前に英語のサポートをしっかりとってくれるという同志社女子大学で学びたいと思いました。

- (2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

私は同志社女子大学が第一志望だったので受験できるものは全てチャレンジしようと思っていました。その中でAO方式入学者選抜は最初のチャンスで、出願基準を満たしていたのと、自信を持ってアピールできるものがあったので受験しようと思いました。

- (3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

私は主に高校で部活動に力を入れていたこと、授業での国際的な学びについてアピールしました。部活動ではキャプテンを務めていたので、全国大会優勝を果たすまでの自分よりリーダーシップの取り方や、チームの成長についてアピールしました。国際的な学びでは海外研修での異文化体験のことや、課題研究論文の作成の中で学んだことをアピールしました。

- (4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

私が一番心がけた点は文章の論理性です。私はまずそれぞれの書類で先生が自分にとってどのような能力を読み取ろうとしているのかを考えました。その上でその結論に結びつけるように自分の経験やその考えに至った理由などを考えていくようにしました。AO方式入学者選抜は、出願書類が多いと思います。全ての書類を通して自分の人物像をわかってもらえるようにしました。

〔面接〕

面接では志望理由を暗記したりはせず、ひたすら自分の考えを道筋を立てて説明できるように練習しました。出願課題の内容は先生もすでに知っているのでプラスアルファのアピールポイントを用意したりしました。面接は直接自分をアピールできるチャンスなので表情や目線、姿勢にも気をつけました。

- (5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は実際にオープンキャンパスへ行くと国際教養学科の先輩とお話しして憧れの先輩を見つけることができ、それが入試へのモチベーションとなっていました。ぜひ、オープンキャンパスでは積極的に参加してほしいと思います。高校生活でも色々なことにチャレンジをして自分のアピール材料を増やしておくことで自分に自信を持って入試に臨めると 생각합니다。面接は会話のような雰囲気です。先生もとても優しいので緊張しすぎないことが大事だと思います。頑張ってください！